報告日　2026 年 6 月 4 日

会　派　名 報告者氏名	民社友愛 佐藤和典、相澤宗一
種　　別	□調査研究（□行政視察）　■研修会　□要請・陳情　□各種会議
用　　務	日本自治創造学会　研究大会
日　　時	①令和 8 年 5 月 27 日（木）13:00～17:00 ②令和 8 年 5 月 28 日（金）10:00～12:00
場　　所 （会　場）	明治大学アカデミーコモン棟　アカデミーホール （東京都千代田区神田駿河台 1-1）
概　　要	＜人口減少下の新たな挑戦～住民に選ばれる魅力ある自治体を創る～＞ 【研修内容①】 「人口減少・デジタル時代の地方自治を探る」 「スマートシュリンクの考え方と実践」 ・賢く収縮するまちづくり 「人口減少時における新たな地域政策のつくり方」 ・実施した地域の産業政策の是非を検証する 【研修内容②】 「都市と地方をかきまぜる」 ・疲弊する都市と衰退する地域を同時に解決する 「持続可能な地域交通を目指す」
所　感　等	【佐藤和典】 敗戦後の復興過程において国が経済発展を最優先に推し進めた結果、集団就職等を通じた首都圏への人口集中が加速し、今日の東京一極集中が形成された。日本では長らく「東京が答え」であり、人々は豊かさや幸せを求めて地方を離れてきた。しかしその構造は地方の過疎化と空洞化を招いており、柏崎市も例外ではない。 過疎とは「慢性的な災害」のようなものだ。日常の中でじわじわと人口が減り、地域が弱っていく、まさに「ゆでガエル」状態といえる。人口縮小社会においては、減少しても地域が存続できる仕組みの構築が重要である。 都市には「生きるリアリティ」に飢え、地方との関わりを求める人々が存在する。そうした関係人口こそ地域再生の力となり得る。都市と地方を「かきまぜる」発想のもと、柏崎市においてもシティセールスを軸に 交流・関係人口の創出・拡大に向けた施策の研究を進めていきたい。 【相澤宗一】 今回の研究大会のテーマは「人口減少下の新たな挑戦」であった。講演では、戦後復興期に国が経済成長を最優先に進めた結果、集団就職などを通じて東京への人口集中が加速し、現在の東京一極集中の姿が形成されたとの説明があった。こうした人口集積は我が国の高度経済成長を支えた一方で、地方の人口減少や地域の衰退という課題も生み出しており、柏崎市においても例外ではない。 人口減少社会においては、人口維持のみを目指すのではなく、人口が減少しても地域が持続できる仕組みづくりが重要であると改めて認識した。国においても「広域的地域活性化基盤整備」が改正され二地域居住の促進が進められている。 都市部には「地方の役に立ちたい」「複数の地域と関わりながら暮らしたい」と考える人々がおり、そうした関係人口は地域にとって大きな力となる。 柏崎市においてもシティセールスを軸として、交流人口・関係人口の創出・拡大に向けた施策について研究を深めてまいりたい。